

第1分科会 総務委員会 ～「環境文化都市」の実現に向けて～

「環境文化都市」は、平成8年4月、飯田市第4次基本構想策定時に20～30年先の飯田市の都市像として生まれた言葉。約30年前から全国に先駆けて環境を政策の柱とし、日本・世界が今この時代となることを予測し、行動してきたことを飯田市の誇りとして再認識すること、現代社会が直面している地球温暖化という課題に正面から向き合い、次の世代に引き継いでいくことを創造していくことが大変重要と考え、総務委員会では「環境文化都市の実現に向けて」をテーマとして掲げ、所管事務調査に取り組んできました。

飯田市のこれまでの取り組みを基盤としつつ、持続可能な地域社会を実現していくため、市民の皆さんの生活の現状、さまざまな分野における「環境」の視点を共有させていただきながら、市政への提言へつなげていきたいと考えています。

先進地の視察報告

★京都府 亀岡市

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言について」

保津川下りの船頭さんの清掃活動から始まった「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の取り組みから、「環境先進都市」への思いについて学ぶことができました。

プラ製レジ袋提供禁止条例をもたらした効果として、レジ袋の月利用が約74万枚→1万枚に減少、エコバック持参率が53.8%→98.3%に上昇した事例を学びました。

ごみ袋の名称を変えることにより、ごみ削減につながった事例をお聞きできたこと、プラごみの一部を配合した指定ごみ袋を活用していることなど、参考になりました。

※燃やすすかしいごみ袋（12.3%減少）、
埋め立てるしかないごみ袋（25%減少）

単なるエコバックの普及ではなく、エコバックをブランド化（ホズバック）する取り組み、市民が持ちたくなる手法は参考になりました。



情報発信・交流拠点「サーキュラーかめおかラボ」



エコノバのリサイクル集積所（一部）

★兵庫県 神戸市

「まわり続けるリサイクル事業について」

小学校区ごとに設置されているエコノバ（資源回収ステーション）の取り組み、容器包装リサイクルを、更に細分化した取り組みを学びました。

エコノバについては、小学校区ごとに設置されている「地域交流センター」を拠点に74カ所で運営されており、大きな施設4カ所以外は「ふれあいのまちづくり協議会」に指定管理をしていました。また、エコノバを「地域交流」としても機能させていることを学びました。

先進地の視察報告

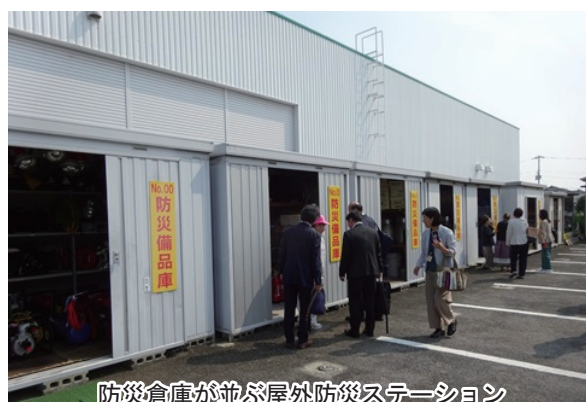
★香川県 丸亀市

「川西地区の自主防災活動及び自治会加入率促進の取り組みについて」

まちの活性化を図るため、丸亀市全体が校区単位にコミュニティ組織を導入し、その中で川西地区は「防災」を選択し、備蓄等の整備については、屋外防災ステーション12カ所(防災倉庫)、備蓄ステーション9カ所(企業協力もあり)、土のうステーション6カ所など、企業等の協力も得ながら徹底した整備がされており大変参考になりました。

自治会加入の促進については、継続的に未加入宅に切り込んでいくパワーとねばり、きちんと整備された資料をもとにした丁寧な説明が必要で、新しい枠組みづくりがポイントになるとのことでした。

例えば「チームかわにしに参加しませんか」など、スポーツや環境活動など軽い感じの内容から入るなど、具体的な手法を教えていただき、大変参考になりました。



防災倉庫が並ぶ屋外防災ステーション



防災倉庫の中(一部)



各地域で運営されているリサイクルステーション

リサイクルステーション現地調査

5～7月に、市内25カ所のリサイクルステーションの現地調査を行いました。

【各地区の共通点】

- 分別については大体できている。
- ビン用の集積袋を新しくして欲しい。
集積袋に「R2」表記の新しいものがあり、ストックがありそう。
- 役員の負担(現状2カ月に1回)
- 利用者の利便性(現状2カ月に1回)
- 高齢者の課題(2カ月に1回で雨が降った場合、ビンを運ぶのが困難)

19地区で地区懇談会を実施

7/8～9/24の間、各地区まちづくり委員会(関係団体等)の皆様にご協力いただき、「議会報告・意見交換会」の事前の活動として、より詳細な地域の実情を共有させていただくため、地区懇談会を開催させていただきました。

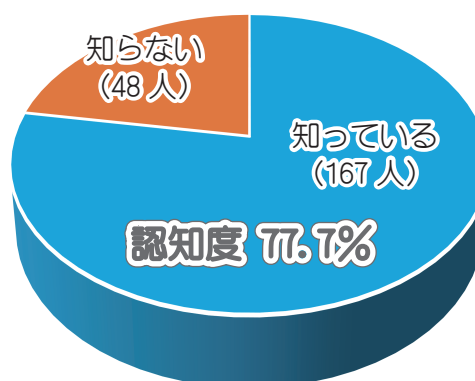
○開催地区：19地区

○地区参加者：215人

○ご意見・ご要望等件数：283件

※いただいたご意見・ご要望の対応につきましては、後日報告させていただきます。

環境文化都市の認知度



～「環境文化都市」の実現に向けて～

（意見交換会）

地区懇談会で聴かせていただいたさまざまな意見の中から、各地域に共通する内容、複数の同様の意見をいただいた内容を抽出しました。身近な生活の中での現状を、皆で共有させていただき、総務委員会として市政への提言につなげていきます。

生活において身近なごみの問題について

- ・ごみの分別や不法投棄等の状況は、良くなってきている。
- ・生ごみを減らす取り組み（堆肥化など）が必要では。
- ・高齢者の課題（独居老人のごみ出しなど）。
- ・アルミ缶等、資源ごみの持ち去りの問題、周知が必要では。
- ・アパート住民専用の集積所の設置（大家さんからの指導も含め）。
- ・ごみ集積所のルール of 周知（どこでも出せると思っている）。
- ・組合未加入と集積所の管理を切り離して考える（共益費含）ことも必要では。
- ・立ち当番が大変と聞くが、どの位の地域でやっているのか。
- ・レジ袋の有料化の時のように市民意識の高揚に取り組んで欲しい。



再生可能なエネルギー、リサイクル等について

- ・自治振興センター等へのリサイクルステーション常設の要望多数。
- ・資源回収が常設されている小中学校がある。
（座光寺小、山本小、遠山中、浜井場で試行）。
- ・古着の資源回収を考えたらどうか。



環境に関する地域の好事例について

- ・ごみ出しの仕方のチラシを通じて、組合未加入者との接点の必然性を作った。
- ・PTA活動の一環として1年間、アルミ缶・ダンボール・新聞紙の回収箱を自治振興センターに常設したが、回収に対して困ることはなかった。
- ・組合未加入者に年1回ごみカレンダーを郵送している。今年、組合に入りませんか、地域の活動に参加しませんかという独自チラシを同封した。組合加入はしないが、地域のボランティアをしないと問い合わせがあった。
- ・地域の公園や広場、マレットゴルフ場の草刈りなど、地域の皆さんが取り組んでいただいている。一方で河川清掃など、高齢化により対応が難しい状況が多くなっている。
- ・遠山中の学有林学習（子どもたちが整備をし、切り出された木材を活用）。
- ・ホタルを見たいという動機から、米を作り、奉納する活動へ。
- ・高齢者のごみ運搬を近所の方が協力している。

その他、地域のさまざまな課題について

- ・熊対策（有害鳥獣の対策として、集積所への柵設置など）。
- ・楽しい一体感のある地域にしていかななくては（ごみ問題は一部の現象）。
- ・組合に入っているメリットを感じてもらうことが大切。
- ・空き家について、家財等が残っている状態の空き家が多く、対応が難しい。所有者への働きかけや活用支援策の情報提供を。
- ・電気自転車の購入に対して、補助金を検討してはどうか。
- ・組合未加入者にも、全市一斉水辺の美化活動やごみゼロ運動などに参加してほしい。（防災行政無線を使うなどしたらどうか）



環境文化都市いいだ これまでの歩み



2022(令和4)年 脱炭素先行地域選定

2021(令和3)年 2050年いいだゼロカーボンシティ宣言

2014(平成26)年
ポイ捨て条例制定
南アルプス ユネスコエコパーク登録

2013(平成25)年 地域環境権条例制定
地域主導の再エネ事業創出

2011(平成23)年 ラウンドアバウトの導入

2010(平成22)年
環境首都コンテスト「明日の環境首都賞」受賞

2009(平成21)年 レジ袋有料化
LED防犯灯の開発・設置

2009(平成21)年 環境モデル都市選定

2008年(平成20年) 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク登録

2007(平成19)年 環境文化都市宣言

2004(平成16)年 平成のまほろば事業 市民共同発電開始

2002(平成14)年 公共施設へのペレットストーブ設置開始

1999(平成11)年 ごみ処理費用負担制度導入

1997(平成9)年 太陽光発電補助開始
地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会(現:地域ぐるみ環境ISO研究会)発足

1996(平成8)年 目指す都市像 環境文化都市

環境基本条例制定 21'いいだ環境プラン策定

